



平成 18 年 11 月 9 日

各 位

株 式 会 社 ウ ィ ザ ス
代 表 取 締 役 社 長 堀 川 一 晃
(コード番号 9 6 9 6)
(問 合 せ 先)
常 務 取 締 役 統 括 支 援 本 部 長
井 尻 芳 晃
T E L . 0 6 (6 2 6 4) 4 2 0 2

平成 19 年 3 月 期 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 の 修 正 に つ い て

平成 19 年 3 月 期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日) の 業 績 予 想 に つ き ま し て 、 平成 18 年 8 月 11 日 付 「 平成 19 年 3 月 期 第 1 四 半 期 財 務 ・ 業 績 の 概 況 (連 結) 」 及 び 「 平成 19 年 3 月 期 第 1 四 半 期 財 務 ・ 業 績 の 概 況 (個 別) 」 に て 発 表 し ま し た 業 績 予 想 を 下 記 の 通 り 修 正 い た し ます。

1 . 連 結 業 績 予 想

(1) 中 間 期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日) (単 位 : 百 万 円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (A)	5 , 7 7 2	2 0 1	2 3 9
今 回 修 正 (B)	5 , 7 2 3	1 2	1 2 9
増 減 額 (B - A)	4 9	2 1 3	1 1 0
増 減 率 (%)	0 . 8	-	-

(2) 通 期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日) (単 位 : 百 万 円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 (A)	1 3 , 4 8 6	1 , 4 1 1	5 0 6
今 回 修 正 (B)	1 3 , 4 8 6	1 , 4 1 1	5 0 6
増 減 額 (B - A)	-	-	-
増 減 率 (%)	-	-	-

2 . 単 体 業 績 予 想

(1) 中 間 期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日) (単 位 : 百 万 円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (A)	5 , 3 9 7	1 3 5	2 0 8
今 回 修 正 (B)	5 , 2 9 2	2	1 3 8
増 減 額 (B - A)	1 0 5	1 3 7	7 0
増 減 率 (%)	1 . 9	-	-

(2) 通期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1 2 , 3 5 4	1 , 3 0 8	4 4 9
今回修正 (B)	1 2 , 3 5 4	1 , 3 0 8	4 4 9
増減額 (B - A)	-	-	-
増減率 (%)	-	-	-

3 . 修正の理由

当中間連結会計期間における経常利益および中間純利益が、当初計画値に比して大幅に改善する見込みとなりましたので、業績予想を修正いたします。

連結売上高につきましては、若干の減少となりましたが、利益面につきましては、当初計画値に比して大幅に改善することが出来ました。主な要因は以下のとおりです。

学習塾事業部門においては、クラス充足率(個人指導においては教員と生徒の 1:2 比率の徹底)等の改善による人件費効率が想定以上に図れたこと

高認・サポート校・通信制高校事業部門においては、サポート校専用校舎とその近隣高認校の統合効果が当初の想定以上であったこと

前連結会計年度より開校した通信制高校の運営が、当初の予想を上回る水準で推移し、中間期末の段階で、若干の黒字化が達成できたこと

広告宣伝費については、Web 等の活用により、当初計画値以下に抑制できたこと

当社グループは、事業の構造上、新年度生募集や学年更新が第 4 四半期に集中し、業績に重要な影響を与えることから、下期につきましては、より慎重に、かつ重点的に注力し、当初の計画を達成すべく努力する所存であり、前回予想値は変更していません。

以上